

研究課題

小学校英語における「聞くこと」「話すこと」の10分パーツ活動集の開発

副題

学校名	札幌市立屯田南小学校
所在地	〒002-0855 北海道札幌市北区屯田5条4丁目6番1号
学級数	13
児童・生徒数	395名
職員数/会員数	22名
学校長	岩間 久美子
研究代表者	岩間 久美子
ホームページ アドレス	http://www.tondenminami-e.sapporo-c.ed.jp/



1. はじめに

平成 21 年度より小・中学校において新学習指導要領の移行期間が始まった。これまでの学習指導要領と大きく異なることの1つは、小学校の高学年（5・6年生）に外国語活動が位置づけられたことである。そこでは、「聞くこと」や「話すこと」を中心とした活動が重視され、目標や学習内容が明記されている。しかし、共通教材として「英語ノート」が文部科学省より提供されたものの、現場の教師の不安は大きい。それは活動のイメージが分からず、その指導方法などがまだ十分確立されていないからである。まずは、短い時間で誰もがができる活動とその指導の蓄積から始めることが重要と考えた。さらに、それらは英語ノートを基本としたものであると考えた。

近年、外国語活動の研修会等で小学生用英語ソフトなども充実していることも分かった。学習指導要領には「CD、DVD などの視聴覚教材の積極的な活用も極めて有効である」とある。小学生用英語ソフトはネイティブ・スピーカーの音声が発音していることから「聞くこと」を中心とした10分パーツの活動の開発が可能である。また、実物投影機とプロジェクタの使用は、大きく映した絵や写真が児童の表現を支えることから「話すこと」を中心とした10分パーツの活動の開発が可能である。そこで、本校は次のことを研究の目的とした。

2. 研究の目的

小学校英語において、教師が ICT を活用することで子どもたちに楽しく「聞くこと」や「話すこと」を学習させる10分パーツ活動集の開発を行うこと（10分パーツは10分単位の学習活動のことを指す。）

尚、開発には授業実践や模擬授業における検証を行いながら進めていくこととした。

3. 研究の方法

本研究は次のような手順で行った。

- (1) 英語ノートの活動の分析
- (2) 年間指導計画の作成
- (3) ICT 教育機器活用の体験型研修
・「小学生用英語ソフト」や「実物投影機・プロジェクタ」の活用の体験型研修
- (4) 「聞くこと」「話すこと」の10分パーツ活動集作成
- (5) 授業実践における「聞くこと」「話すこと」の10分パーツ活動集の検証と改善

4. 研究の経過

(1) 英語ノートの活動の分析と年間指導計画

英語ノートの活動を分析するにあたり、次のことが明らか

になった。

①「聞くこと」を中心とした活動

- ・単元（1単元の多くは4時間構成）の最初の1時間の約半分を占めること
- ・授業の導入などにも「聞くこと」を中心とした活動が多いこと

②「話すこと」を中心とした活動

- ・単元の後半の3～4時間目に活動が多いこと
- ・単元の終わりの1時間の約8割を占めること

先に述べたように小学生用英語ソフトはネイティブ・スピーカーの音声が発音していることから「聞くこと」を中心とした10分パーツの活動の開発に、また実物投影机とプロジェクタの使用は、大きく映した絵や写真が児童の表現を支えることから「話すこと」を中心とした10分パーツの活動の開発を進めていくこととした。

(2) 年間指導計画の作成

今年度は5・6年生がともに「英語ノート1」を採択した。年間指導計画は「英語ノート1」を基本とし、学年の実態や学校行事、今までの英語活動の実践の蓄積などから今年度の外国語活動の年間指導計画は次のようにした。

5・6年生の外国語活動の年間指導計画

単元	5 学 年	6 学 年	備 考
1	世界の「こんにちは」を知ろう	世界の「こんにちは」を知ろう	※1～4は「英語ノート1」の単元そのものではないことを示している。 ※1は「英語のノート2」からの単元である。 ※2の言語材料は地域に関するものとして「雪や冬に関するもの」とした。 ※3～4の言語材料は「英語ノート2」の単元9「将来の夢を紹介しよう」を基本に見学旅行や卒業に関連するものとした。
2	ジェスチャーをしよう	ジェスチャーをしよう	
3	数で遊ぼう	数で遊ぼう	
4	カレンダーを作ろう※1	思い出発表をしようI※3	
5	いろいろな国の衣装を知ろう	いろいろな国の衣装を知ろう	
6	外来語を知ろう	外来語を知ろう	
7	時間割を作ろう	時間割を作ろう	
8	クイズ大会をしよう※2	クイズ大会をしよう※2	
9	ランチ・メニューを作ろう	思い出発表をしようII※4	

この年間指導計画をもとに、ICT活用の研修を経て、短い時間で誰もができる「聞くこと」「話すこと」の10分パーツ活動集を作成することとした。

(3) ICT教育機器活用の研修

今回、使用した小学生用英語ソフトは「フラッシュ英単語（名詞編）」「フラッシュ英単語（形容詞・動詞編）」「フラッシュ英語表現」の3つのソフトである。これはフラッシュ型教材というフラッシュカードのように瞬時に表示される画面

を使ったデジタル教材であり、英単語や英語表現はすべてネイティブ・スピーカーの音声となっているものである。学校の教材作成用のパソコンやコンピュータ室のパソコンにインストールをし、どの教師、あるいは児童もすぐ使えるように環境を整備した上で研修を行った。研修を通して、フラッシュ英単語・英語表現の教材は「英語ノート」の活動と同じ活動が可能であり、これらの教材を使ってより簡単に、そして楽しくできるという共通理解が得られた。



↑フラッシュ英単語（名詞編）



↑実物投影机とプロジェクタの研修

実物投影机とプロジェクタの活用の研修は『すべての子どもがわかる授業づくりー教室でICTを使おうー』のICT教育機器活用の体験型教員研修をもとに実施した。実物投影机とプロジェクタは移動可能な台に設定し、電源を入れるとすぐに活用できるようにした上で研修を行った。小グループごとにICT教育機器が活用できるようにし、外国語活動における授業場面を発表することで、活動やその指導方法のイメージを容易につかめることができた。

(4)「聞くこと」「話すこと」の10分パーツ活動集作成

本校の活動開発グループを中心に、授業実践とも並行しながら「聞くこと」「話すこと」の10分パーツ活動集の開発を進めていった。また、ICT教育機器活用の研修での教員からの意見も受け、活動集の形式を次のようにした。

- ・授業における活用場面（「導入」・「展開」・「まとめ」の中から選択）
- ・活動名
- ・使用するICT教育機器
- ・活動に必要なもの
- ・活動の単位の人数（ペア・グループなどを明記）
- ・活動の進め方
- ・英語ノートとの関連

(5) 授業実践における「聞くこと」「話すこと」の10分パーツ活動集の検証と改善

①「聞くこと」の10分パーツ活動の実践から

本校の5年生の児童34名を対象に外国語活動の授業を実施した。フラッシュ英単語の名詞編を使い「キー・ワード・ゲーム」を行った。活動の進め方は次の通りである。

●キー・ワード・ゲームの進め方

- ・児童はフラッシュ英単語から聞こえてくる英語の後に続いて英語を言う。
- ・ペアの真ん中に消しゴムを置かせる。
- ・教師はキーワードになる英単語を1つ選ぶ。
- ・児童は頭に手をあて、フラッシュ英単語から聞こえてくる英語の後に続いて、英語を言う。
- ・キーワードが聞こえたら、児童はすぐに消しゴムを素早くとる。
- ・先に消しゴムをとった方が勝ちとなる。



授業の子どもたちの振り返りでは「イラストがあって英語が分かりやすい」「次に何がくるのかわくわくするから楽しい」「たくさんの英語があって面白い」などフラッシュ英単語についての感想が多くあった。また、教師からは「英語ノートを基本にした活動が展開でき、テンポよく授業を進められる」「画面がランダムに提示できるため、ゲーム活動が構成しやすい」「ネイティブ・スピーカーの音声があるため、教師は子どもたちと一緒に発音を学んでいくという立場で授業が進められる」「楽しく繰り返し英語に慣れ親しませることができ、子どもたちの英語を使おうという意欲が高まった」というように、フラッシュ英単語が指導に効果的であったという感想が得られた。

聞くこと

導入 展開 まとめ

3. キーワード・ゲーム

キーワードを聞いた時だけ、消しゴムをとります。

●扱う表現

- ・フラッシュ英単語 名詞編 複数形 動物1



名詞編 複数形 動物1

bears クマ
birds トリ
cats ネコ
cows ウシ
dogs イヌ
ducks アヒル
eagles ワシ
elephants ゾウ

●準備するもの

- ・フラッシュ英単語 名詞編
- ・パソコン
- ・プロジェクタ
- ・2人に1つずつの消しゴム

●活動する単位の人数

- ・ペアで (3人でも可)

●活動の進め方

- ・児童はフラッシュ英単語から聞こえてくる英語の後に続いて、英語を言う。
- ・ペアの真ん中に消しゴムを置かせる。
- ・教師はキーワードになる英単語を1つ選ぶ。
- ・児童は頭に手をあて、フラッシュ英単語から聞こえてくる英語の後に続いて、英語を言う。
- ・キーワードが聞こえたら、児童はすぐに消しゴムを素早くとる。
- ・先に消しゴムをとった方が勝ちとなる。



ここがポイント

ランダム機能を使うとより楽しく活動ができます。

●英語ノートとの関連

- ・英語ノート1
- 【Lesson4】 I like apples. 自己紹介をしよう

活動集の改善点としては、英語ノートとの関連性をより高めていくためにも、フラッシュ英単語の英単語を活動集に明記することや、活動がイメージしやすい写真等を可能な限り入れることがあげられた。改善後の活動集の例は右のようになった。

②「話すこと」の10分パーツ活動の実践から

本校の6年生の児童 29 名を対象に外国語活動の授業を実施した。実物投影機とプロジェクタを使い「クイズ大会」を行った。活動の進め方は次の通りである。

●クイズ大会の進め方

- ・クイズを出す児童は問題を大きく映す。答える児童は分かった時点で手を挙げて答える。

クイズを出す児童： (漢字全体を隠したまま)

Hello. My name is ...

This is my favorite KANJI. What's this?

クイズに答える児童： How many strokes?

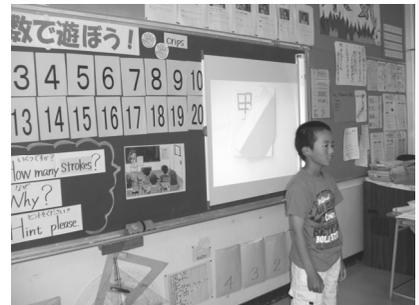
クイズを出す児童： 11 strokes.

クイズに答える児童： Hints, please.

クイズを出す児童： O.K. (漢字を少しずつ見せる)

クイズに答える児童： 野球の「野」。

クイズを出す児童： That's right!



授業の子どもたちの振り返りでは「自分の言いたいことが英語でわかってもらえてよかった」、また教師からは「クイズが大きく映し出されることでその内容を容易に把握することができ、英語でのコミュニケーションが図りやすい環境をつくることができた」「画用紙等に大きく書かせるなどの準備の時間を、英語を使って発表する練習の時間とすることができた」という感想が得られた。クイズを大きく映すことは、子どもたちの「英語で話そう」また「英語でクイズを出したり、答えたりできる」という学習意欲につながったことがわかった。

活動集の改善点としては、上のように対話例を明記することと、「聞くこと」の10分パーツ活動集と同様、活動がイメージしやすい写真などを可能な限り入れることがあげられた。

5. 研究の成果

本研究は、フラッシュ英単語・英語表現や実物投影機とプロジェクタの活用を通して、「聞くこと」「話すこと」の10分パーツ活動集を開発した。10分という短い時間に限定し、体験型の研修や授業実践を通してその活動を検証していくことで、誰もができるたくさんの活動の共通理解とその指導が蓄積できた。また、本研究は「北海道教育大学小学校英語プロジェクト 小学校外国語活動実践交流会」でその成果の一部を発表することができた。「ICT活用が外国語活動にはとても効果的で、そしてそれは決して難しいことではない」という感想を外国語活動に関心のある多くの先生方からいただいたことは大変大きな成果であった。

6. おわりに

本研究は英語ノートを基本に活動集を構成した。今後は本校で今まで取り組んできた実践も視野に入れながら、活動集をさらに充実させていきたい。また、今年度は本校で教育実践発表会も開催する。その際には本研究の成果をより多くの先生方に広げていきたいと考える。

参考文献

- 文部科学省（2009）『英語ノート1 指導資料』
- 文部科学省（2009）『英語ノート2 指導資料』
- 高橋純／堀田龍也（2009）『すべての子どもがわかる授業づくりー教室でICTを使おうー』